

財団の概要

(1) 設立及び目的

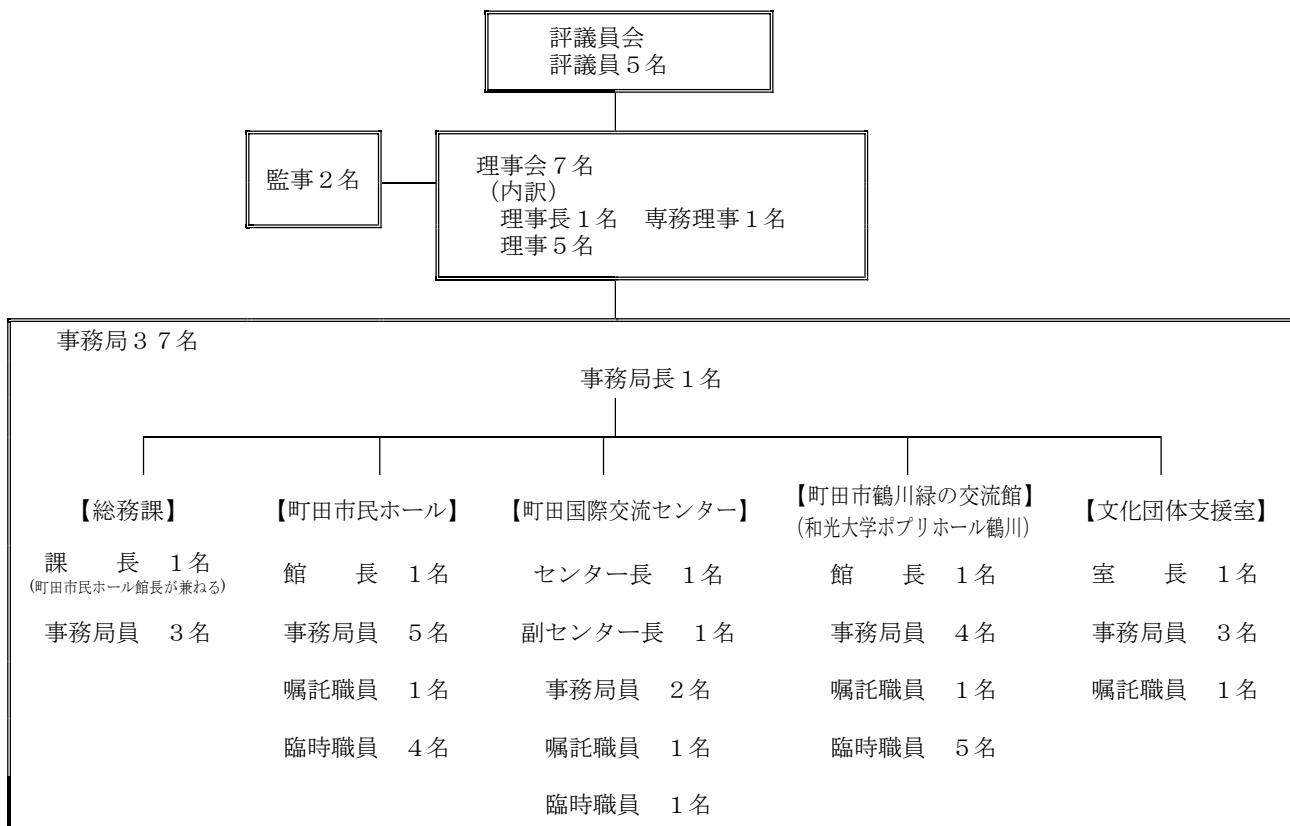
当財団は、従来から文化活動の場と機会を提供する町田市民ホールの事業運営を行っていた「町田市文化振興公社」と市民が国際交流活動の中心となって、主体的・創造的な活動を行っていた「町田国際協会」が統合され、「地域文化を創造し、その発展を図るとともに、市民活動充実のための支援、地域における国際交流活動の推進を図り、もって文化の香り高く国際感覚豊かなまちづくりに寄与する」ことを目的に、町田市により2004年4月、「財団法人町田市文化・国際交流財団」として設立されました。

その後、公益法人制度の改正に伴い、2011年4月、「一般財団法人町田市文化・国際交流財団」として新たにスタートし、町田市民ホール、町田市鶴川緑の交流館（以下「和光大学ポプリホール鶴川」という）と町田国際交流センターで主な活動を行っています。

指定管理業務では、2022年4月から「町田市民ホール、町田市鶴川緑の交流館ホール等及び町田市立鶴川駅前図書館（図書館運営業務を除く。）」として、2027年3月までの5年間、新たに両施設を一体で和光産業（株）と「町田市文化施設指定管理共同事業体」を組み、代表者として指定管理者の指定を受け現在に至っています。

(2) 基本財産 300万円（町田市からの出捐金）

(3) 組織図 (2025年3月31日現在)



事業報告

町田市民ホール・和光大学ポプリホール鶴川の両館で、当初の計画を上回る113事業を実施し、目標入場者数においても全体で94.8%と高い達成率になりました。公演の満足度については、主催事業に限りますが、満足・やや満足が両館の平均で98.7%に達しており、ご来場いただいた多くのお客様に満足いただける公演を提供できました。

また、これまで財団が目的としてきた「明日を担う芸術家の育成」「市民の文化・芸術活動支援」のひとつとして、2024年6月からスタートした「まちだアーティストバンク」と「まちだステージ応援プログラム」は、目標を上回る登録や申込があり、大きな反響となりました。

2024年度は、改めて当財団に対する市民の皆様の需要を再認識するとともに、当財団が市民団体の皆様の活動支援を行い、市民の皆様の期待に応えることこそが、町田市の文化振興や国際交流の発展につながることを実感した年でした。

◎ 芸術文化及び市民文化の向上に関する事業（第1号事業）

1 文化活動の支援及び市民参加型事業

文化活動の支援及び市民参加型事業として34事業を実施しました。特に今年度は、文化芸術活動の担い手を育成するために新たな事業を実施し、文化・芸術団体及び市民団体との連携をさらに強化するとともに、活動しやすい環境づくりや情報提供を行いました。6月からスタートした「まちだアーティストバンク」では、SNSや口コミによる広報宣伝の効果が大きく、2024年度は目標数30件を大幅に超える164件の登録がありました。イベント出演者を探している方からの相談も11件あり、登録者とのマッチング7件を行う事で、登録者の活動機会を増やすことができました。「まちだアーティストバンク」の立ち上げにより、誰もが文化芸術を身近に触れられる環境整備やアーティスト等が継続的に活動できる仕組みづくりの一翼を担うとともに、この事業に合わせて、登録者を対象に行なった助成制度「まちだステージ応援プログラム」では20件の事業に施設利用料及び附属設備利用料を助成することで、文化・芸術活動を行う個人や団体の皆様の支援を行うことができました。

町田市民ホールでは、11事業を実施しました。

町田フィルハーモニー交響楽団の50周年記念シリーズでは、スタートに合わせ、町田市、町田フィルと財団が連携し、記者会見を行うなど広報宣伝に力をいれた結果、完売で開催することができました。郷土芸能まつりでは、主催者である郷土芸能協会と積極的にコミュニケーションを図り、運営課題などを共有し具体的な提案を行うことで、協会の活性化の支援につながりました。例年開催されている秋の「町田市民文化祭」は、(一社)町田市文化協会の皆様の工夫を凝らした演出もあり、大変好評を頂き、多くの方の来場に至りました。

和光大学ポプリホール鶴川では、23事業を実施しました。

複合施設の特性を活かし、図書館やカフェと連携して入場無料のサロンコンサートを計6回開催しました。併せて、交流スペースや多目的室を活用し、市民の皆様が広く文化芸術に触れることのできるワークショップや展示などを複数開催しました。また、9回目を迎えた鶴川ショートムービーコンテストでは、入選作品をホールの大スクリーンで上映することで、観客の皆様だけではなくショートムービーを制作した監督や関係者の皆様にも喜んでいただきました。毎年新年早々に開催の「新春文化の祭典 in 鶴川」では、華道や茶道の伝統文化に触れる機会を持つとともに、町田市文化協会の皆様による新春にふさわしい事業となり、お正月らしさを実感することができました。

2 文化的提供事業

毎年、好評を頂いている落語や映画の上映のほか、クラシックコンサートやポピュラーコンサートなど、国内外の優れた文化事業を適正な入場料金で79事業を実施しました。

○主催事業

【町田市民ホール】

19事業を実施しました。

演劇、ポピュラー、講談、演歌、映画、クラシックなど、幅広いジャンルの事業を開催し、多くのお客様にお楽しみいただきました。「五条院凌」によるピアノ演奏や「加古隆クアルテット」によるピアノ四重奏団など初めて実施した事業も多く、客層も普段とは異なり、幅広い地域・世代の方に町田市民ホールを知っていただくことができました。

「山内恵介コンサート」や「ザ・ニュースペーパー in 町田」など、毎年恒例の事業も実施し、楽しみにされている方を含め、来客層の定着が図られました。

今後も、初めて実施する事業や、毎年恒例の事業などを組み合わせ、より多くのお客様にお楽しみいただけけるよう努めます。

【和光大学ポプリホール鶴川】

28事業を実施しました。

「五十嵐紅トリオ」など初開催の公演を行ったほか、お子様向けの人形劇「エルマーとりゅう」では、当日の鑑賞体験がより深まるよう、イベントとして鶴川駅前図書館による【ブックトーク「エルマーのぼうけん」の世界をたのしもう！】、【ワークショップ「りゅうのこ ボリスをつくろう！」】を開催し、公演に先駆けて物語の内容に触れる機会を提供し、ストーリー性のある本格的な人形劇を多くのお客様に楽しんでいただきました。

恒例となっている「水曜午後の音楽会」では若手演奏家の熱気あふれる演奏を多くの皆様に楽しんでいただきました。また、本公演が100回を迎えたことを記念し、第101回目を「特別記念公演」と銘打ち、人気・実力ともにトップクラスのチェリストにご出演いただき、非常に好評でした。

継続して開催している映画上映会では、「南極料理人」、「ラ・ラ・ランド」、「翔んで埼玉」を上映し、安価な入場料で良質な作品や往時の話題作を観ていただく機会をお客様に提供しました。

陸上自衛隊第1師団第1音楽隊にご協力いただいた「避難訓練コンサート」では、陸上自衛隊音楽隊の軽妙な演奏を楽しんでいただいた後に、公演時に災害が発生したことを想定し、お客様、職員ともに実地での避難行動を体験しました。

○共催事業

【町田市民ホール】

13事業を実施しました。

落語を中心に、クラシック、歌舞伎、ポピュラー、子ども向けなど、幅広いジャンルの事業を実施しました。

落語では「立川志の輔独演会」、「文枝と小朝の二人会」、「柳家三三 春風亭一之輔 二人会 ～真夏の夜漸～」、「三遊亭小遊三・林家たい平 二人会」、「春風亭小朝独演会」の計5回を実施し、落語好きのお客様だけではなく幅広い層の皆様にもお楽しみいただきました。

また、東京文化会館と連携した事業「Music Program TOKYO Workshop Workshop! 東京ネットワーク計画 みんなでわくわく！森の室内楽団ファミリーコンサート」も実施するなど、他館との連携を深めました。

【和光大学ポプリホール鶴川】

落語を中心に19事業を実施しました。

NPO法人鶴川落語会主催の「柳家小はぜ勉強会」は例年と同じく6回開催し、すべての回が完売しました。また、鶴川落語会主催のホールでの落語会では4事業を開催、同会ならではの取り合わせの二人会を、常連のお客様、落語好きのお客様に楽しんでいただきました。都民寄席では、桂文治師匠と人間国宝である五街道雲助師匠、音楽パフォーマンスの方にもご出演いただき、ご来場の皆様に日本の伝統話芸である落語の世界と寄席文化を身近に感じていただきました。

鶴川駅前図書館との共催では6事業を開催しました。特に【講座「クラシック音楽を身近なものにベートーヴェン「第九」～初演より200年を記念して～】では、玉川大学芸術学部の教授を講師としてお迎えし、楽しく分かりやすくクラシック音楽を解説していました。

○協力・受託事業

協力事業では、2024年度にスタートした「まちだアーティストバンク」の登録者に出演していただき、広報宣伝のみならず運営の相談など事業のブラッシュアップを図りました。

和光大学ポプリホール鶴川では、例年行っている鶴川地区協議会主催の「3水スマイルラウンジ」に交流スペースを開放し、多くの地域の皆様にご来場いただきました。また、館内各展示スペースを活用し、定期的に行っている市内団体に野生動物の絵などを展示していただく「ワイルドライフファインアート」展も開催しました。

「伊藤富貴子ピアノリサイタル」、「富貴亜里紗ピアノリサイタル」、「高橋里奈ピアノリサイタル」、「塩谷遙ピアノリサイタル」など地元で活躍するピアニストのリサイタルに協力したほか、「町田子ども劇場」、「町田にベイビーシアターを広げる会」といった町田市内

の子どもたちへの芸術文化の普及・啓発活動に注力していただいている団体にも協力しました。

受託事業については、前年度に引き続き、町田市と町田茶道会主催の町田薬師池公園四季彩の杜西園での茶会の設営を受託するとともに、そのノウハウを活かし、鶴川香山園のオープニングセレモニーでは、町田茶道会の皆様と協力して野点茶会を実施し、多くの方よりご好評を頂くことができました。

◎ 町田市が設置する文化施設等の管理運営に関する事業（第2号事業）

【町田市民ホール管理運営事業】

2024年度の施設利用につきましては、ホールの利用率は83.6%、会議室（5室）は59.1%、練習室は35.9%、ギャラリー（2室）は33.3%となりました。

施設においては、エレベーターが度々停止するなど、老朽化による不具合が絶えず発生しておりますが、利用者が安全・安心でなおかつ快適にご利用いただけるよう施設の管理運営に努めました。

【和光大学ポプリホール鶴川管理運営事業】

2024年度のホールの利用率は84.7%。諸室においては、多目的室は54.4%、練習室（2室）は66.7%、会議室（4室）は57.8%、エクササイズルームは70.3%となりました。設備面では、トイレや空調機等の故障が多く見受けられましたが、利用者に影響が出ないように迅速に対応し、安全・安心でなおかつ快適な施設の管理運営に努めました。

◎ 地域における国際交流活動の推進事業（第3号事業）

町田国際交流センターでは、7つのボランティア部会が中心となり、国籍や民族など異なる人々が互いの文化の違いを認め合い、対等な関係を築きながら、地域社会の構成員として共に生きていくという「多文化共生社会」を構築するため、4分野の事業を企画しました。

【分野別事業活動】

① 外国人支援事業

- ・日本語教室対面8クラスの学習者総数は168人、支援者数は86人とオンライン（Zoom）による支援活動の学習者数は20人、支援者数は13人、計326回の支援を行いました。
- ・子ども教室対面の児童・生徒は35人、支援者数は32人、43回の支援を行いました。また、オンラインによる支援活動の児童は4人、支援者数は5人、41回の支援を行いました。

- ・外国人相談部会では、電話やオンライン、対面による外国人のための生活相談等を週3回実施し、相談件数は517件となりました。
- ・その他、市内病院等への同行・電話・オンライン通訳161件、町田市等からの翻訳依頼は34件ありました。

② 国際理解・協力事業

- ・外国人支援と国際交流への貢献を目指し、あわせて異文化理解の一環として、5言語（英語、中国語、韓国語、スペイン語、タイ語）8サークルを5月から開講し、194人が受講しました。
- ・国際理解・協力部会による懇談会「JICAモンゴルOn-Lineリポート」を6月に開催し、27人が参加しました。
- ・小中学校での総合教育の一環として行われる国際理解教育支援のため、3か国の外国人講師3人を、町田市立真光寺中学校で実施された授業に派遣し、227人が参加しました。
- ・毎年開催している「夢広場」は、18団体580人の参加がありました。

③ 国際交流事業

- ・国際交流部会では、外国籍住民と「モルック大会」、「囲碁で遊ぶ国際交流」、「中国北部の家庭料理を作りましょう」、「町田でみかん狩りとモルック競技を楽しもう」を実施し、合わせて126人が参加しました。日本文化を体験するイベントでは町内会主催の秋の例大祭「子ども山車巡行」、「折り紙教室」、「日本の家庭料理と一緒に作りましょう」、町田市民文化祭「お茶会」に参加し、33人の外国籍の方が参加しました。
- ・留学生との交流を目的にホームビジットを実施し、留学生11人、ホストファミリー7家庭が相互の文化理解し、尊重することを学ぶ機会となりました。

④ 情報提供及び連携事業

- ・国際交流センターの活動を広くPRするため、10月に町田市と町田まちづくり公社主催「まちだウイークエンドストリート」への出店、11月にまちカフェ！実行委員会主催、町田市市民部協働推進共催「まちカフェ」への出店、2月に男女平等フェスティバルへのパネル展示を実施し、国際交流センターの事業を広く一般市民に理解してもらうとともに新規会員増を図りました。
- ・桜美林大学サービスラーニングセンターとの連携事業「プレスクール」（外国にルーツを持つ就学前児童への日本語学習オンライン支援）として大学生5人が支援活動に参加しました。
- ・外国人支援活動の一環として「まちだ地域国際交流協会」と「町田日本語の会」と三者で日本語学習支援活動の方針等について話し合う場を持ちました。
- ・地域日本語コーディネーター事業では、日本語教室3クラスに通所している外国人を対象に「防災防火訓練」を実施し、37人が参加しました。また、懇談会「ポーランドの大学で日本語を教えてみて」を開催し、34人が参加しました。

- ・外国籍住民に対し、適切なサービスを提供できるよう、センター利用の外国人を対象にニーズを把握するためのアンケートを実施しました。
- ・8月に初めて日本語を勉強する外国人を対象に夏季日本語講座「はじめてのにほんごきょうしつ」、「日本語学習支援ボランティア基礎講座」を開講し、全体で17人が参加しました。また、日本語教室8クラスの日本語学習者対象に「ごみ分別講習会」を開催し、市役所担当課から直接説明してもらい、全体で96人が講習を受けました。

◎その他この法人の目的を達成するために必要な事業（第4号事業）

【広報事業】

財団情報誌「コンサートガイドまちだ」を偶数月、町田国際交流センター活動報告誌「ぽろんていえ」を奇数月にそれぞれ6回発行するとともに、ホームページやXなどのSNS等による情報発信を行いました。チケットの販路の拡大として、町田市職員互助会への委託販売も昨年度に引き続き取り組んでいます。

4月からはホームページを一新し、町田市民ホールや和光大学ポプリホール鶴川のホール・諸室等の写真や360度のパノラマ写真を積極的に取り入れ、視覚的に情報が伝わりやすくするとともにスマートフォンで見ても自動的に見やすくする機能や英語に切り替えられる機能などを加えたことで、以前より数段使いやすくなりました。また、オンラインチケットシステムの会員登録数は、2025年3月末時点で28,614名、前年度末より4,549名の増員となりました。

また、町田市民ホールと和光大学ポプリホール鶴川の両館入口でデジタルサイネージ設置による広告・宣伝を8月から実施しており、公演予定などが大変見やすくなりました。

【自主事業：レストラン・カフェ運営】

町田市民ホールにて「レストラン」の運営を行い、営業日数333日で総客数40,478名の利用がありました。通常メニューの他、野菜販売・コーヒーのテイクアウトサービス等を開始するとともに、町田市保健所管理栄養士とのコラボレーションによる「食生活改善普及運動月間・期間限定メニュー」を提供し、好評を頂き、来客数の増加につながりました。

また、和光大学ポプリホール鶴川にて「カフェ」の運営を行い、委託事業者の発案により、パンの販売や新メニューの提供などを行い、営業日数339日で、総客数30,491名の利用がありました。

【人材育成】

財団独自の自己啓発費用補助制度を、臨時職員を含めた全職員を対象に実施しています。また、前年度に引き続き、7月に普通救命講習会（AED講習）を共同事業体として取り組み、臨時職員を含む財団職員15人と和光産業職員13人が受講し、救急時の対応能力の向上を図りました。